

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和6年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和6年8月28日（水）午後2時～午後3時15分
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 大研修室
議 題	(1) 高松市生涯学習センターの概要について (2) 令和6年度高松市生涯学習センターの事業計画について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	9人 田中委員（会長）、藤井（雄）委員（副会長）、西岡委員、辻委員、香西委員、井上委員、藤井（真）委員、坂上委員、高濱委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

会議の経過及び結果
<p>(1) 会長及び副会長の互選について</p> <p>(2) 高松市生涯学習センターの概要について 高松市生涯学習センターの概要について、事務局から内容について説明</p> <p>(3) 令和6年度高松市生涯学習センターの事業計画について 令和6年度高松市生涯学習センターの事業計画について、事務局から内容について説明</p> <p>(4) 第3期高松市教育振興基本計画について（報告） 第3期高松市教育振興基本計画について、事務局から報告</p> <p>【主な質疑・意見等】</p> <p>委員) これまでの課題と取組で、施設稼働率の低迷とあるが、今後の目標値はあるか。 事務局) 施設稼働率については、平成14年の開館から、一時期少し伸びた後、減少傾向にあったが、現在は回復傾向にある。生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数について、今年策定した教育振興基本計画に目標値を設定し、その前期計画のピークまで持っていきたいと考えている。少子高齢化や人口減少の影響もあり難しいところもあるが、今後はオンラインでの講座を充実させ、これまで、生涯学習センターに来られなかった方や、今まで興味がなかった方の取り込みを図ることで、目標値を達成したい。</p> <p>委員) 委員にお尋ねするが、まなびCANの存在は、周囲の方も含めて知られているか。 委員) まなびCANの存在は、普段から高松市のホームページを見ている方であれば御存じだと思うし、自分の興味のある講座については、瓦町フラッグなど他の施設の講座も含めて調べ</p>

と思う。

また、まなびCANは駅から近く、周辺に駐車場もあり、受講料も無料や少額で、利用しやすいと思う。ただ、一般的に知られているかどうかは分からない。

事務局) これまで積極的に周知に努めてきたものの、十分ではないと考えている。新聞やテレビに取材してもらったり、青年会議所が運営するサイト「umAGEな高松」に記事を掲載するなどしているが周知しきれていない。インターネット上の口コミを見ると、利用した方の評価は高いが、まだ十分には知られていない状況であるため、委員各位の御意見もいただきながら、知名度の向上に努めたい。

委員) 課題で利用者の固定化とあるが、リピーター率、固定化率は把握しているか。

事務局) リピーター率については、令和4年度で80%程度であった。近年は、自主学習スペースの無料開放のほか、この夏休みに初めて実習室を図画工作書写スペースとして無料開放したり、高齢者層以外の集客も見込まれる映画をまなび映画CANで上映するなどの取組により、新規の利用者が増えている。今後、リピーター率がどう変化するかについては、注視していきたい。

委員) 映画の観覧者数は少なくなく、むしろ多いと思うが、高齢者が多いのか。

事務局) 平日の昼間に上映する映画の場合は、高齢者中心であるが、夜間に上映している映画に関しては、仕事帰りの人が多いという印象を受ける。現役世代に来てもらえるような映画も上映し、映画をきっかけに、生涯学習センターに来ていただき、利用していただくきっかけとなることが重要である。

委員) 夜間の仕事帰りというのはヒントで、そこを上手に広報すれば、更なる集客が見込める。一方で、高齢者層をターゲットにした広報をすることで、高齢者の利用も伸ばせると思う。

事務局) 上映作品の選定も含めて御意見をいただきながら、今後も利用促進に努めたい。

委員) まなびCANのInstagramのフォロワー数は現在879人だが、令和6年度中に2,000人とする目標を設定してはどうか。また、多目的ホールの可動席を格納する動画のような高評価のショート動画については、定期的にアップすればよいと思う。

事務局) 現在フォロワー1,000人を目指しているところだが、人気のショート動画は定期的にInstagramに上げるなどし、フォロワーの更なる獲得に努めたい。

会長) 利用者の方から、講座に関する要望などのアンケートは取っているのか。

事務局) アンケートは生涯学習センターの利用者から取っているが、既存の利用者からのアンケート結果だけを基にすると、これまで、高齢者が利用の中心であったことから、高齢者の要望に応えるだけの事業展開になってしまう。委員の皆様を始め、広範な意見を取り入れた運営に努めたい。

副会長) 今年策定された第3次高松市教育振興基本計画の指標の、生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数について、現況値は令和4年度、目標値は令和9年度となっているが、令和5年度時点の状況はどうであったか。

事務局) 令和4年度は72,733人、令和5年度は78,435人と、5,700人ほど増加し、順調に推移している。今後生涯学習センターでオンライン講座を充実させることで、参加者数が更に伸びると見込んでいる。

委員) オンライン講座の受講方法は、従来の講座と異なるのか。

事務局) 現時点では、生涯学習センターの会場での受講とオンラインでの配信を同時に行うハイブリッド型を考えている。

会議の結果、議題（１）、議題（２）について承認を得た。